















木 小 夜 寺 澤 琴 風

(日曜)

(日曜)

耕作がお姫の顔で二猪口ばかり

飲んだ所へ、お姫がお玉にう

れと耳打ちしたので、小夜がし

よんぱり入つて來た。

すると耕作の顔色がタフと變

つた。お姫はそれを眼鏡く見つ

けたが、小夜は少しも心附かず

いた。お姫の横に坐つた。

「お小夜、お身體はすつから

宜いのか?」

「ね?」

同時に、お姫はゾクと全身に水

を浴びながらやうに感じた。自分

の胸の調子が早鐘のやうに打つ

て、お姫は思はず顔を顰めた。

斯う言ひつけた。

彼は両手で頭の毛をしめるや

うにして食卓に突厥した。

「俺は生れてから、斯んな苦し

い思ひをしたことがない。俺が

恥じらいに迷ひがないのが俺

にはどうにも詰められない。俺

の胸が腐つてゐると言はれるが

なんと言はれやう。俺はどう

思ひが起つた。

斯う言ひつけた。

彼は両手で頭の毛をしめるや

うにして食卓に突厥した。

「俺は生れてから、斯んな苦し

い思ひをしたことがない。俺が

恥じらいに迷ひがないのが俺

にはどうにも詰められない。俺

の胸が腐つてゐると言はれるが

なんと言はれやう。俺はどう

思ひが起つた。

斯う言ひつけた。

彼は両手で頭の毛をしめるや

うにして食卓に突厥した。

「俺は生れてから、斯んな苦し

い思ひをしたことがない。俺が

恥じらいに迷ひがないのが俺

にはどうにも詰められない。俺

の胸が腐つてゐると言はれるが

なんと言はれやう。俺はどう

思ひが起つた。

斯う言ひつけた。

彼は両手で頭の毛をしめるや

うにして食卓に突厥した。

「俺は生れてから、斯んな苦し

い思ひをしたことがない。俺が

恥じらいに迷ひがないのが俺

にはどうにも詰められない。俺

の胸が腐つてゐると言はれるが

なんと言はれやう。俺はどう

思ひが起つた。

斯う言ひつけた。

彼は両手で頭の毛をしめるや

うにして食卓に突厥した。

「俺は生れてから、斯んな苦し

い思ひをしたことがない。俺が

恥じらいに迷ひがないのが俺

にはどうにも詰められない。俺

の胸が腐つてゐると言はれるが

なんと言はれやう。俺はどう

思ひが起つた。

斯う言ひつけた。

彼は両手で頭の毛をしめるや

うにして食卓に突厥した。

「俺は生れてから、斯んな苦し

い思ひをしたことがない。俺が

恥じらいに迷ひがないのが俺

にはどうにも詰められない。俺

の胸が腐つてゐると言はれるが

なんと言はれやう。俺はどう

思ひが起つた。

斯う言ひつけた。

彼は両手で頭の毛をしめるや

うにして食卓に突厥した。

「俺は生れてから、斯んな苦し

い思ひをしたことがない。俺が

恥じらいに迷ひがないのが俺

にはどうにも詰められない。俺

の胸が腐つてゐると言はれるが

なんと言はれやう。俺はどう

思ひが起つた。

斯う言ひつけた。

彼は両手で頭の毛をしめるや

うにして食卓に突厥した。

「俺は生れてから、斯んな苦し

い思ひをしたことがない。俺が

恥じらいに迷ひがないのが俺

にはどうにも詰められない。俺

の胸が腐つてゐると言はれるが

なんと言はれやう。俺はどう

思ひが起つた。

斯う言ひつけた。

彼は両手で頭の毛をしめるや

うにして食卓に突厥した。

「俺は生れてから、斯んな苦し

い思ひをしたことがない。俺が

恥じらいに迷ひがないのが俺

にはどうにも詰められない。俺

の胸が腐つてゐると言はれるが

なんと言はれやう。俺はどう

思ひが起つた。

斯う言ひつけた。

彼は両手で頭の毛をしめるや

うにして食卓に突厥した。

「俺は生れてから、斯んな苦し

い思ひをしたことがない。俺が

恥じらいに迷ひがないのが俺

にはどうにも詰められない。俺

の胸が腐つてゐると言はれるが

なんと言はれやう。俺はどう

思ひが起つた。

斯う言ひつけた。

彼は両手で頭の毛をしめるや

うにして食卓に突厥した。

「俺は生れてから、斯んな苦し

い思ひをしたことがない。俺が

恥じらいに迷ひがないのが俺

にはどうにも詰められない。俺

の胸が腐つてゐると言はれるが

なんと言はれやう。俺はどう

思ひが起つた。

斯う言ひつけた。

彼は両手で頭の毛をしめるや

うにして食卓に突厥した。

「俺は生れてから、斯んな苦し

い思ひをしたことがない。俺が

恥じらいに迷ひがないのが俺

にはどうにも詰められない。俺

の胸が腐つてゐると言はれるが

なんと言はれやう。俺はどう

思ひが起つた。

斯う言ひつけた。

彼は両手で頭の毛をしめるや

うにして食卓に突厥した。

「俺は生れてから、斯んな苦し

い思ひをしたことがない。俺が

恥じらいに迷ひがないのが俺

にはどうにも詰められない。俺

の胸が腐つてゐると言はれるが

なんと言はれやう。俺はどう

思ひが起つた。

斯う言ひつけた。

彼は両手で頭の毛をしめるや

うにして食卓に突厥した。

「俺は生れてから、斯んな苦し

い思ひをしたことがない。俺が

恥じらいに迷ひがないのが俺

にはどうにも詰められない。俺

の胸が腐つてゐると言はれるが

なんと言はれやう。俺はどう

思ひが起つた。

斯う言ひつけた。

彼は両手で頭の毛をしめるや

うにして食卓に突厥した。

「俺は生れてから、斯んな苦し

い思ひをしたことがない。俺が

恥じらいに迷ひがないのが俺

にはどうにも詰められない。俺

の胸が腐つてゐると言はれるが

なんと言はれやう。俺はどう

思ひが起つた。

斯う言ひつけた。

彼は両手で頭の毛をしめるや

うにして食卓に突厥した。

「俺は生れてから、斯んな苦し

い思ひをしたことがない。俺が

恥じらいに迷ひがないのが俺

にはどうにも詰められない。俺

の胸が腐つてゐると言はれる